

回鶻國

らず内訌の爲め、東西二國に分立し、西突厥は東羅馬と通じて波斯を攻め、東突厥は初め隋に服せしが、次第に其の領土を擴め、唐の高祖の如きは、臣禮を執りて其の兵を借るに至りしも、後ち驕奢に耽りて、遂に太宗に降り、西突厥も亦次で滅ぼさる。東突厥の滅亡後、回鶻國其の故地に起れり。

元來回鶻國民は、漢の滅亡後、鐵勒テイルの部族たり。突厥國亡ぶるに至るや、其の一半は皆此に入る。蓋し同國は西域の地、即ち今の甘肅以西、哈密、吐魯番、喀喇沙爾、烏魯木齊邊の總稱とす。

宗史に『回鶻は匈奴の別裔にして、初め鐵勒、後回鶻と稱し、甘州以西、哈密、吐魯番に住す』と。五代史に『甘州を以て回鶻の牙とす』と在り。以て突厥遺族民の回鶻に入りたるを知るに足る。而して他の一半は、西、大食國に奔り、後次第に勢を得て、終には印度一帶の地を包有せしも、以來國勢日に衰へ、遂に西遼に併吞せらる。未だ幾許ならざるに、突厥更に花刺子摸ホラズムの地に起り、波斯を統一して國勢を復す、是に於て乃蠻部ナイマン（外蒙古）の屈出律クチュルクと牒比、擊て西遼を亡ぼし、餘威を驅て、中央亞細亞及阿富汗斯坦を略取し、サマルカンドを以て都とせり。』

興
突厥の再